

○2 期 L さんのご意見 （下線部分が都支部からの返答）

【第 4 号議案】

東京都茶協同組合からの食育授業請負停止について

各方面に配慮され書かれていることが推察されます。

多くのページを使い、多くの説明をされておりますが、食育活動に参加している私でも、何を伝えたいのかははっきりしない、という印象です。

ましてや食育活動に参加されない方が、これをご覧になっても今一つ理解できないのではないかと思いました。

資料の繰り返しではありますが、食育プロジェクトは、次の問題を抱えています。

・慢性的なスタッフの不足

参加したい会員が、実際は少ない、ということ。小学校の授業であることから、平日の実施がほとんどで、仕事を持っている会員はそもそも参加が難しい。結果、1～2 度参加したら、もう応募しない、という会員がほとんどになってしまい、結局、ある程度決まった方々の間で回している状態です。

・スタッフを確保するために費やす過剰な時間

年間 20 回近い食育授業を実行する為、応募者が不足の場合はお願いできそうな方を探し、役員がメールや電話でお願いをします。これに費やす時間が非常に負担になります。食育活動に興味を持って頂けるよう、研修に工夫をする等の努力もしており、昨年に関しては、非常に効果があり、多くの参加者が 1～2 回は応募した為、比較的スタッフ集めには苦労しませんでした。表を見ていただければおわかりになるかと思えます。しかし、やはり、それ以上の回数の参加とはならない為、後半になるほど応募者数が厳しくなってきます。実際、年明けの授業ではスタッフ集めに非常に苦労しました。そして、初めて参加した会員が翌年応募して下さることは少ない為（少なくとも、過去の実績では例外なく）、また新しい会員に食育の宣伝を行い、うまく興味を持って頂ければその方々が 1～2 回参加をする、ということの繰り返しです。昨年は、研修に大きく改革を加え、効果も非常に高かったのですが、毎年上手くいくとは限りません。実際、一昨年までは上手くいっていませんでした。では、なぜ、昨年はそれができたのか。理由は二つです。「食育に関わる役員がすでに役員経験があり、支部活動やプロジェクトの仕組みについては既に承知しており、改革に取り組むためのタイムラグがない」「役員メンバーの中に、食育チーフが 2 名おり、問題点の洗い出しが正確にできる」。その上で、手間と時間をかけて改革に取り組み、結果として多くの「初参加者」を得たわけです。しかし、ストレートに申し上げますが、効果は「その年限り」です。

・今後懸念される、チーフの不足

資料にも書いたように、食育授業を行うにあたり、組合との調整や学校との打合せ、レッスンプランの作成、授業当日の取り仕切りを担うチーフの存在は不可欠です。チーフの業務を行うためには、食育スタッフとして経験を積む必要がありますが、そもそも、何度も参加して下さる会員が少なく、また、参加回数の比較的多い方をお願いをしても、お引き受け頂くことができず、チーフの人数を増やす目処が全く立ちません。結果、長期に渡って同じ方にチーフをお願いしており、現在のチーフが事情によりお辞めになれば、それだけ他のチーフの負担が増えます。年間に行う授業の回数を減らして頂く事を組合に交渉してきましたが、これについては受け入れて頂けませんでした。(引き受けられるチーフがない、もしくはどうしてもスタッフが集まらない場合は、日程を変えることで対応してほしい、とのこと)

・食育プロジェクト維持の為の都支部活動費の負担

これは、上記の問題に比べれば小さな事と言えます。組合からは、あくまで「スタッフ費」としての実働分の支払いがあるのみで、食育事業を変わずに継続していく為の維持費は全て都支部持ちです。しかし、都支部としても活動費に余裕のないことから、チーフの労力に対しての手当は「気持ち」程度のもとなっています。NPOだから、食育活動の理念に賛同するから、ボランティア精神で活動するのは当然、という考え方は、現チーフの方々が了解して下さっているとしても、将来に渡ってそれが通用するかは疑問です。ただ、費用の問題、というのは、上記の問題ほど深刻ではありません。他の何か(運営費)を諦めればそれで済むからです。

私は1月25日に支部長より「東京都茶協同組合からの食育授業請負停止について」伺いました。

都支部活動費への負担が大きいこと、役員の労力の多さ、また近年新しく会員になる方の考え方などが少しずつ変化している事、それは役員になる方にも同じことが言える、など支部長よりお話を頂きました。

私としては、支部長からのお話を色々な方面から考え書かれたものが、4号議案の内容だと受け止めております。

もし違うようなら訂正ください。

チーフの皆様にご説明した内容と基本的には同じ事になります。4号議案と特に齟齬はないと思います。

また、5号議案の予算案、事業費支出試算の食育Pのところ「徐々に移行する仮定で予算計上、新フロー移行後の支出は0となる」と書かれておりますので、次年度の1年で都支部よ

りうまく次の体制に移行をするための1年、との解釈しており、それについては都支部として最大限の助力をする旨のお話を支部長よりいただいておりますので、そのように解釈しております。

これも違うようなら訂正ください。

仰る通りです。一年間で、新しい体制を模索してゆきます。

食育活動が支部の活動でなくなることは非常に残念です。

「今の会員の方々に合ったものとはどのようなことなのか？」合わせることだけがよいとは思いませんが、時代に合った内容、行い方など、食育活動だけではなく考えていかなければならないと思います。

その通りだと思います。初期のころと会員の状況も代わり、支部活動も時代に合わせてその性質が変わってゆくのは当然のことです。

食育以外の活動についても、改革の必要があることは役員会も認識しています。活動後にアンケートをとり、現在の活動に対して会員がどのように感じているかを1年間リサーチしてきました。その結果、改革が必要と思われるものについては着手しています。ただ、外部活動については、主催者の理解なしには行えない為、交渉が必要になります。

いくつかの活動については、既に改革を行っています。例を挙げます。

<茶の木神社献茶祭>

運営方法を変えることにより、前年と同様の予算内でスタッフ数を増やし、比較的経験の浅いスタッフのトライアル的な意味を持たせ、実際に、その後、各種活動に度々参加して下さる会員の発掘に繋がった。

<人形町てんてん祭>

請負費の計算方法の変更（実質的な値上げ）。

使用道具の一部を主催者側で購入して頂き、送料と道具配送に関わる労力の軽減。運営方法を変え、全体の労力を軽減。（台風のため中止となり、実施は次年度に）

<六義園>

請負費の値上げ。毎年8万円ほどの赤字を出していた事業だが、黒字化。大きなイベントであるため、資金に余裕があると、十分なスタッフ数を確保でき、一人一人の負担を軽減。

<百円茶屋>

「足腰に負担がかかる」、「来客数が多く、重労働」との会員の声と、本来の「かごしま茶の

普及活動」としての効果を反映するための改革案（具体的な実施方法）を主催者に提案。趣旨としてはご理解頂いており、「解決に向けて努力している。時間がかかるので、今しばらく待つてほしい」との返答を頂いている。食育と異なり、百円茶屋は一定のスタッフ応募を確保出来ている為、役員会としては、現状、静観しているが、鹿児島県茶業会議所からは、他イベントに使用のお茶を提供して頂くなど、良い関係を築いている。今後も改善に向けて主催者と協力してゆく。

<フレンドシップラン>

請負費の値上げ。7万円近い赤字を出してきたイベントだが、ほぼ、収支トントンに。実施方法の改革。対象者に外国人が多く、外国人対応プロジェクトの一環となるイベントであることから、内容を呈茶のみに絞り、外国語にそれほど自信がないスタッフでも気軽に参加できるようにした。（コロナウィルス流行により、中止になった為、実施は次年度に）

その他、外国人対応プロジェクトは、外国語に自信がなくても「簡単なものから、とにかく参加」を促すため、研修の内容を大きく変えています。外プロチーフのご協力により、大きな効果を得ることが出来ました。

この1年間、支部長、役員の皆様には多くの時間を食育活動にかけていただき、ありがとうございました、感謝しております。

次年度もよろしく願いいたします。

食育チーフとして、長い間ご活躍頂き、まことにありがとうございました。

今回の食育プロジェクトについての提案に対して、1年後にご理解を頂けるよう、努力して参ります。